

平昌冬季オリンピック報道についての日中比較研究
～新聞・ネット報道を対象として～

順天堂大学
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4118014
氏名：許 一凡

【目的】

本研究では日本と中国メディアにおけるオリンピック報道を対象とし、記事内容の差を検討する。

【方法】

対象としたメディアは朝日新聞と人民日報、およびそれらが運営しているウェブサイトである。大会前後1週間までの報道について、記事の主体を国別、性別、スポーツ種目別に分類し、字数を単位としてデータ化、比較した。件数については χ^2 検定によって、記事文字数については分散分析を実施した。

【結果】

対象国の差について、両国とも自国の記事が中心になっていること、中国の新聞はその傾向が最も高いことが示唆された。交互作用については、親密国と他国を比較すると日本のメディアは他国の文字数が多かったのに対し、中国は親密国の文字数が多かった。記事件数の性差については、女性の記事が男性より多かった。

【結論】

中国のメディアは、日本のメディアと比較してオリンピック報道において自国およびイデオロギーを共有する親密国中心の傾向が高かった。まだジェンダー面については、これまでの研究とは異なり、両国共にフェアであった。